



Title	豊北海岸におけるホソバウンランとコメツブウマゴヤシの記録
Author(s)	持田, 誠
Citation	浦幌町立博物館紀要, 18, 42
Issue Date	2018-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/76912
Type	journal article
File Information	Bulletin of the Historical Museum of Urahoro18_42.pdf



採集記録・観測記録

豊北海岸におけるホソバウンランとコメツブウマゴヤシの記録

持田 誠¹⁾

Makoto Mochida. 2018. Records of *Linaria vulgaris* and *Festuca ovina* in the Toyokita coast, Tokachi, Hokkaido.
Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 18: 42.

豊北海岸では、近年、沿岸への漂着木の撤去作業が繰り返して実施されており、重機による撤去作業で植生が地表ごと剥離される裸地化が各地みられる。こうした裸地化した場所で、従来はみられなかった外来種が侵入してくる事例が相次いでいる（持田 2017）。

本報では、豊北海岸周辺の河川堤防や道路沿いでは確認されていたが、海岸草原内ではまだ報告の無かった外来種として、2 種の植物を報告する。

2016 年 10 月 1 日、豊頃町から浦幌町にかけての豊北海岸において、オオバコ科 Plantaginaceae のホソバウンラン *Linaria vulgaris* Mill. の生育を確認した。本種はユーラシア原産の外来種で、五十嵐（2016）によると十勝を含む全道各地で確認されている。十勝地方では国道沿いの路面間隙や鉄道線路および砂質なブラットホーム上などで広く生育している様子を確認しているが、これまで豊北海岸内からの記録はない。

確認地点は豊北海岸の豊頃町側トーチカの付近で、幅 2m ほどの園内に群落を形成していた。当該地点には自動車の乗り入れが頻繁にみられることから、国道の路面間隙雑草個体の種子が自動車のタイヤに付着して持ち込まれた可能性が高いと考えられる。

また、周辺からはユーラシア原産のマメ科の外来種コメツブウマゴヤシ *Medicago lupulina* L. も確認された。コメツブウマゴヤシは、2011 年に東日本大震災後、漂着物の一次集積場として用いられていたウシノケグサ *Festuca ovina* L. が優占する群落のなかからみつかった。漂着物集積場として用いられて以後、この区域からはウシノケグサの密度が低下しており、空いた空間に侵入したものと思われる。五十嵐（2016）では豊北海岸付近に分布記録が無いが、前年には浦幌十勝川堤防での群生を確認している（未発表）。

ホソバウンランは、翌 2017 年には消失した。確認地点が再び漂着木処理によって著しく攪乱されたため



図 1 ホソバウンラン *Linaria vulgaris* Mill. Oct. 1, 2016 豊北
と思われる。コメツブウマゴヤシはその後確認されており、今後、定着していく可能性がある。

外来種のなかには、一時的な侵入で消失するものと、継続的に出現するものがあり、今後各植物種の出現動向への注意が必要である。

採集標本は浦幌町立博物館（URAH）へ収蔵する。

採集標本

ホソバウンラン *Linaria vulgaris* Mill.

北海道中川郡豊頃町字豊北、豊北海岸、トーチカ付近、
Oct.1, 2016. 持田誠・円子紳一 #2016-40 (URAH)

コメツブウマゴヤシ *Medicago lupulina* L.

北海道中川郡豊頃町字豊北、豊北海岸、トーチカ付近、
Oct.1, 2016. 持田誠 #2016-41 (URAH)

引用文献

五十嵐 博. 2016. 北海道外来植物便覧 2015 年版.
18+191pp. 北海道大学出版会, 札幌.

持田誠. 2017. 十勝東部から釧路西部における最近の
観察記録. 北方山草, (34): 57-62.

1) 浦幌町立博物館（〒 089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町 16-1）